



日本家庭科教育学会中国地区会

2026年3月

も く じ

ごあいさつ	中国地区会会長	村上 かおり	1
第45回日本家庭科教育学会中国地区会総会報告	庶務	藤井 志保	2
	会計	森永 八江	
2025年度第45回講演会及び研究発表会報告	大会実行委員長	西尾 幸一郎	6
研究室だより	島根大学	長 拓実	13
学校現場から	広島大学附属中学校・高等学校	宮川 駿	14
日本家庭科教育学会本部だより	地区会長	西尾 幸一郎	15
2026年度第46回総会，研究発表会及び講演会のご案内	広島女学院大学	檜崎 久美子	16
中国地区会共同研究（2024～2026年度）の途中経過	山口大学	西尾 幸一郎	17
事務局だより	庶務	瀧日 滋野	18

ごあいさつ

中国地区会会長 村上かおり（広島大学）

このたび、西尾幸一郎先生の後任として、私が中国地区会会長を務めることになりました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。昨年の日本家庭科教育学会第68回大会は、中国地区会が主催して、7月12日(土)・13日(日)に山口市のKDDI維新ホールにて開催いたしました。中国地区会会員の皆様にご協力いただき、コロナ禍以降久しぶりの対面による学術大会でしたが、全国から参加して下さった多くの研究者や家庭科教員の方々に、対面開催の良さを体感していただける大会となりました。円滑な学会運営をして下さった、実行委員長の西尾先生を始め本地区会会員の皆様の企画力、実践力の高さを大変心強く思いました。これからの2年間も本学会の活動がより充実したものになるよう務めていきたいと思っておりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

さて今年8月29日(土)には、広島女学院大学にて、第46回中国地区会研究発表会ならびに講演会が開催されます。今回は、広島大学名誉教授の鈴木明子先生に「家政教育学研究と教育実践の足跡と展望」と題して、ご講演いただきます。先生は現在、日本家庭科教育学会長として家庭科教育界をリードしておられますが、これまでに関わってこられた要職で得た情報や多くの実践事例をもとに、これからの家庭科教育の示唆となるお話をしていただく予定です。本地区会としての実施は2年ぶりとなりますので、研究発表はもちろん、多くの皆様にご参加いただき、活発な研究交流の場となることを願っております。

本地区会の運営については、これまでの役員の方々のご尽力により、ネットワークや情報ツールを活用した取り組みが行われ、オンライン会議による総会の実施に加え、本会報もメール配信によるペーパーレス化が実現しました。これらは、本会が持続可能性を追求しながら、末永く活動できる環境が整備できたことによるものです。オンライン化を更に充実させ、安定したものにするためには、会員の皆様のメールアドレスを正確にご提供いただくことが重要です。時節柄、異動等によりアドレスを変更される場合には事務局へご一報くださいますよう、会長からもお願いする次第です。

少子化とともに、教育現場を取り巻く環境が年々厳しくなっていますが、中国地区会の活動がより充実できるよう、役員一同真摯に取り組んで行きたいと思っております。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

2026年3月

第45回日本家庭科教育学会中国地区会総会報告

開催方法：オンライン

【報告事項】

1. 2024年度庶務報告（2024年4月1日～2025年3月31日）

【地区会現況報告】（2025年3月31日現在）鳥取3名，広島40名，岡山9名，島根16名，山口9名，計77名

（参考：2024年8月82名）

【2024年度事業報告】

2024年7月 日本家庭科教育学会中国地区会第44回総会，講演会及び研究発表会案内送付

2024年8月 役員会開催（オンライン開催）

2024年8月 日本家庭科教育学会中国地区会第44回総会，講演会及び研究発表会開催（島根大学）

2025年3月 第45号会報発行（電子化スタート）

2. 2024年度会計報告（2024年4月1日～2025年3月31日）

【一般会計】

<収入の部>

（単位：円）

費目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	325,170	325,170	
地区会費	82,000	55,000	1,000円×55人分相当 （過年度支払い含む）
本部からの交付金	49,590	50,550	会員数82名（R7.4現在）
教大協からの補助金	25,000	25,000	
雑収入	2	2,137	預金利息（47），書籍印税収入 （2,090）
合計	481,762	457,857	

<支出の部>

（単位：円）

費目	予算額	決算額	備考
総会費	100,000	51,094	島根大学対面開催 講師謝礼他
通信費	10,000	4,140	レターパック
HP運営費	19,628	20,728	HPサーバー契約料，HP管理謝金等
事務用品費	10,000	0	
会議費	3,000	0	
印刷費	10,000	0	
雑費	2,000	860	硬貨手数料他
共同研究費（特別会計）	100,000	100,000	特別会計へ
予備費	227,134	0	
次年度繰越金	0	281,035	
合計	481,762	457,857	

<次年度繰越金>

281,035円

【特別会計】

<収入の部>

(単位：円)

費目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	193,936	193,936	
一般会計から繰入	100,000	100,000	
利子	0	23	
合計	293,936	293,959	

<支出の部>

(単位：円)

費目	予算額	決算額	備考
共同研究出版費（買上げ）	0	0	
通信費	0	0	
雑費	0	0	
予備費	0	0	
次年度繰越金	293,936	293,959	
合計	293,936	293,959	

<次年度繰越金> 293,959円

上記の通り、報告いたします。

令和7年9月26日

会計：森永八江

3. 2024年度 会計監査報告

2024年度の会計について、領収書、帳簿を照合して監査した結果、適正に処理されておりましたので報告いたします。

2025年 9月 30日 会計監査： 森 千晴

2025年 10月 3日 会計監査： 檜崎 久美子

【 協議事項 】

1. 2025年度事業計画（案）（2025年4月1日～2026年3月31日）

2025年 4月～7月 日本家庭科教育学会全国大会（山口大会）に向けての実行委員会を随時開催

2025年 11月 役員会開催（総会に向けて）

2025年 12月 役員会開催（総会に向けて）

2026年 1月 日本家庭科教育学会中国地区会第45回総会

2026年 3月 会報46号発行（電子化、HP掲載とメール配信）

2. 2025 年度会計予算

【一般会計】(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

<収入の部>

(単位：円)

費 目	決算額	予算額	備 考
前年度繰越金	325,170	281,035	
地区会費	55,000	82,000	1,000 円×会員 82 名
本部からの交付金	50,550	50,550	
教大協からの補助金	25,000	25,000	
雑収入	2,137	2	利子
合計	457,857	438,587	

<支出の部>

(単位：円)

費 目	前年度決算額	予算額	備 考
総会費	51,094	0	対面開催しないため
通信費	4,140	10,000	
HP 運営費	20,728	21,000	HP サーバー契約料, ドメイン料他, 管理費
事務用品費	0	10,000	
会議費	0	3,000	お茶代
印刷費	0	0	
雑費	860	2,000	硬貨手数料, 振り込み手数料
共同研究費 (特別会計)	100,000	100,000	特別会計へ
予備費	0	292,587	
次年度繰越金	281,035	0	
合 計	457,857	438,587	

【特別会計】

<収入の部>

(単位：円)

費 目	前年度決算額	予算額	備 考
前年度繰越金	193,936	293,959	
一般会計から繰入	100,000	100,000	
利子	23	0	
合 計	293,959	393,959	

<支出の部>

(単位：円)

費 目	前年度決算額	予算額	備 考
共同研究出版費	0	0	
通信費	0	0	
雑費	0	0	
予備費	0	0	
次年度繰越金	293,959	393,959	
合 計	293,959	393,959	

3. 第46回大会について

開催場所 広島女学院大学, 実行委員長 檜崎久美子, 開催日 2026年8月開催

4. 共同研究について (担当: 山口大学 西尾 幸一郎)

テーマ「ウェルビーイングにつながる学び、家庭科からのアプローチ」(期間を2027年に延長する。)

共同研究の期間: 2024年6月~2027年3月末(報告書を完成) 2024年5月1日現在で申し込みが6件あり

5. ホームページの運営について

サーバー契約1年ごと(12ヶ月: 13,200円(1,100円/月)), ドメイン更新料(1,428円), SSL更新料(1,100円), 過去会報誌データ化, 資料整理など→梶山先生が引き続き担当して下さる。(管理費5,000円/年)

6. 刊行物の無料配布(広報活動の一環として)について

中国地区会の会員獲得に向けた広報活動の一環として、会員を通じて、地域の学校教員・教育学部生に過去の刊行物<家庭や地域と連携・協働する家庭科授業(2020年度、残部18)、コロナ禍における家庭科の授業(2023年度、残部32)>を無料配布する。

7. 会報の記事(学校現場より・研究室だより)

執筆者に関しては、役員会で決定する。

8. 役員について

【令和5・6年度役員】

会長: 西尾 幸一郎(山口) 副会長: 竹吉 昭人(島根) 監査: 檜崎 久美子(広島), 森 千晴(岡山)

庶務: 藤井 志保(山口) 会計: 森永 八江(山口)

【任期】2023年(令和5年)9月~2025年(令和7年)8月

【令和7・8年度役員】

会長: 村上 かおり(広島) 副会長: 藤井 志保(山口) 監査: 長拓実(島根), 森千晴(岡山)

庶務: 瀧日 滋野(広島) 会計: 梶山 曜子(広島)

【任期】2025年(令和7年)9月~2027年(令和9年)8月

2025年度第45回講演会及び研究発表会報告

2025年度の日本家庭科教育学会中国地区会第45回講演会及び研究発表会は、山口大学にて日本家庭科教育学会第68回大会との共同開催となりました。

(以下、日本家庭科教育学会第68回大会『研究発表要旨集』から転載)

日本家庭科教育学会中国地区会 第45回 研究発表会 研究発表要旨

The Japan Association of Home Economics Education
日本家庭科教育学会
2025年度第68回大会



期日：2025年7月12日(土)～7月13日(日)

会場：山口市産業交流拠点施設 KDDI 維新ホール



研究発表目次

口頭発表

1. 技術・家庭 家庭分野の教科書における調理実習例の食物アレルギーの原因となる食品の記載の比較と代用食品の提案

山口大学教育学部

○森永 八江

2. リメイクでつなぐ小・中学校家庭科における布を用いた製作活動の授業実践

島根大学教育学部附属義務教育学校前期課程 ○竹吉 昭人

島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 湯浅 里保

群馬大学共同教育学部 鎌野 育代

島根大学教育学部（元） 多々納道子

3. 幼児理解への一歩をどう踏み出すか

—プレ体験を通じた中学生の関心・課題・展望の構造化—

山口大学教育学部

○藤井 志保

ポスター発表

4. 令和6年度岡山県立岡山御津高等学校「キャリア実習」における家庭科授業の実践と検討

岡山県立岡山御津高等学校

○長谷川千華

岡山大学（元）

佐藤 園

発表番号 I

研究題目	
技術・家庭 家庭分野の教科書における調理実習例の食物アレルギーの原因となる食品の記載の比較と代用食品の提案	
所属機関名	研究者名
山口大学教育学部	○森永八江
発表要旨	
<p>【目的】令和4年度アレルギー疾患に関する調査報告書（公益財団法人日本学校保健会）によると、食物アレルギーの有病率は、小学校 6.1%、中学校 6.7%、高等学校 6.6%となっている。中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編には、実習の指導のところで、「調理実習については、食物アレルギーにも配慮するものとする。」とあり、「食物アレルギーについては、生徒の食物アレルギーに関する正確な情報の把握に努め、発症の原因となりやすい食物の管理や、発症した場合の緊急時対応について各学校の基本方針等を基に事前確認を行うとともに、保護者や関係機関等との情報共有を確実にし、事故の防止に努めるようにする。具体的には、調理実習で扱う食材にアレルギーの原因となる物質を含む食品が含まれていないかを確認する。食品によっては直接口に入れなくても、手に触れたり、調理したときの蒸気を吸ったりすることで発症する場合もあるので十分配慮する。」とされている。そこで本研究では、中学校の家庭科の教科書に記載されている調理実習の実習例から、アレルギーの原因となる食品を抽出し、その代用食品を提案し、また、実習例の比較を行った。</p> <p>【方法】「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」（東京書籍）、「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」（開隆堂）および「New 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する」（教育図書）に記載されている調理実習の実習例から、食品表示法にアレルギー表示の表示義務のある特定原材料8品目および表示が推奨されている特定原材料に準ずる20品目を抽出し、その代用食品を提案し、また、実習例の比較を行った。</p> <p>【結果】「新しい技術・家庭 家庭分野」（東京書籍）にはアレルギーの原因となる食品の表示等はなかった。一方、「技術・家庭 家庭分野」（開隆堂）は、「材料と分量」の部分に記載されているアレルギーの原因となる食品に黄色くハイライトされていた。「New 技術・家庭 家庭分野」（教育図書）は、アレルギーの原因となる食品に印等はないが、ページの一番下の部分に「食物アレルギーへの対応」として、卵アレルギー、乳アレルギー、小麦アレルギーの食品に対する代用食品を記載していた。記載された実習例は、東京書籍55品、開隆堂52品、教育図書47品であった。3社共通の料理は、しょうが焼き、ハンバーグ、ミネストローネ、ムニエル、ポテトサラダ、温野菜サラダ、コーンスープ、煮魚、きゅうりとわかめの酢の物、かきたま汁、かば焼き、青菜のごまあえ、豚汁、切り干し大根の煮物、きんぴら、筑前煮の16品であった。このうち、しょうが焼きときんぴらには特定原材料が、きゅうりとわかめの酢の物およびかば焼きには特定原材料および特定原材料に準ずる20品目が含まれていなかった。また、特定原材料と特定原材料に準ずる20品目を含んでいない実習例は、東京書籍では、野菜と春雨のスープ、ラタトゥイユ、野菜の蒸し浸し、れんこんのきんぴら、蒸し野菜のサラダ、きゅうりとわかめの酢の物、魚の煮付け、昆布とかつお節のソフトふりかけ、フルーツ寒天、スティック大学芋の10品であった。開隆堂では、青菜のおひたし、だいこんのみそ汁、きゅうりとわかめの酢の物、つみれ汁、かば焼き、かぼちゃの煮つけ、なすのみそいため、きのこのマリネ、なめこのみそ汁、きんぴらごぼう、いももちの11品であった。教育図書では、フルーツ寒天ゼリー、いわしのかば焼き、粉ふきいも、わかめときゅうりの酢の物、じゃがいものお焼き、みたらし団子の6品であった。アレルギーの原因となる食品を含む実習例は、東京書籍45品、開隆堂41品、教育図書41品であった。</p> <p>【考察】それぞれの出版社の教科書では食物アレルギーの原因となる食品の記載方法が異なっていた。特定原材料および特定原材料に準ずる20品目が含まれていない実習例もあり、さらに代用食品を提案することで、食物アレルギーのある生徒がいても家庭科の調理実習を実施できる知見を得た。</p>	

発表番号 2

研究題目	
リメイクでつなぐ小・中学校家庭科における布を用いた製作活動の授業実践	
所属機関名	研究者名
島根大学教育学部附属義務教育学校（前期課程） 島根大学教育学部附属義務教育学校（後期課程） 群馬大学共同教育学部 島根大学教育学部（元）	○竹 吉 昭 人 湯 浅 里 保 鎌 野 育 代 多々納 道 子
発表要旨	
<p>【目的】 小・中学校における布を用いた製作活動については、これまでも今日的教育意義や教材研究、指導方法など検証されてきた。平成 29 年告示の学習指導要領の改定では、内容の改善として、小・中学校共に 3 つの内容とし、系統性の明確化が図られた。しかし、内容は整理されたものの、実際に授業を展開する上で、子どもたちの実態を踏まえ、どのような視点に意義を見出しながら小・中学校を通して実生活に生かすことができる製作技能を育成していくかには課題がある。そこで、本授業実践では、持続可能な社会の構築に向けて、製作活動と「消費生活・環境」の内容を関連付け、“リメイク”の視点に着目して小・中学校のつながりを意識した題材計画を立て授業実践を行い、授業後の児童生徒の製作に対する意識を調査し考察することで、これからの製作活動のあり方の示唆を得ることを目的とした。</p> <p>【方法】 2024 年 7 月～2025 年 1 月にリメイクの視点を踏まえた製作活動の題材を設定し、前期課程（小学校）6 年生 2 クラス、後期課程（中学校）8 年生（中学 2 年）4 クラスを対象に授業実践を行った。合わせて、2025 年 3 月に授業実践を行った学年・クラスを対象に Google Foam を用いた授業に関する質問調査を実施した。</p> <p>【結果と考察】 6 年生では、題材名「布で作ろう！～製作を通した生活の“豊かさ”を考えながら～」の実践を行った。製作を通した生活の“豊かさ”を考えながら問題を見だし課題を設定し、持続可能な社会の構築の見方・考え方も踏まえながら課題解決を図ることをねらいとした。製作で使用する布を検討する際に、リメイクの視点を取り入れることで、便利さや楽しさだけでなく、環境に配慮した生活や持続可能な社会の構築にもつながる“豊かさ”を考え、そのことを実践することができる技能として製作を捉え、日々の生活に主体的に関わっていこうとする力の育成につながった。8 年生では、題材名「布製品をリメイクして生活を豊かにしよう」の実践を行った。題材全体を貫く課題として「健康・快適で持続可能な衣生活のためにはどのようなことが大切なのだろうか」と設定し、製作では、資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、リメイク製作を行った。生徒の身近な生活の中から問題を見だし、生活を豊かにすることや、資源や環境に配慮することに関する課題を設定して製作を行うことで、よりよい衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度や、資源や環境を大切にしようとする態度を育成することができた。</p> <p>質問調査では、前期課程 6 年生 56 名中 51 名、後期課程 8 年生 118 名中 41 名の回答を得た。授業を通して最も高まったり身についたりした力は、6 年生は「計画を立てる力」「ミシン縫いをする力」、8 年生は「必要な物を考える力」と回答した。また、製作活動やリメイクに関する興味・関心について、4 件法で尋ねたところ、とても高まったと回答した児童生徒は、製作活動への興味関心が 6 年生 60.8%、8 年生 46.3%、リメイクに関する興味・関心が 6 年生 51.0%、8 年生 43.9%となった。リメイクに関する質問では、小学生の方が高い値を示したが、自由記述を見てみると、中学生の方がより具体的な活用場面を想起した内容が多く見られ、リメイクに関連した製作への意識は低いと考える。布を用いた製作の知識や技能はこれからの生活の中でどのような場面で役立つと考えるかという質問では、環境への配慮の視点はもちろん、特に中学生では、保育、福祉、介護、防災と、より多岐にわたる視点を見いだしている割合が高くなる傾向が見られた。小学校でリメイクや製作の良さに触れ、中学校でのリメイク製作につなげることは、子どもたち自身が製作活動の意義を見だし、生活の中で生きる知識・技能として捉える有効な視点であると考えられる。</p>	

研究 題 目	
幼児理解への一步をどう踏み出すか —プレ体験を通じた中学生の関心・課題・展望の構造化—	
所属機関名	研究者名
山口大学教育学部	○藤井志保
発 表 要 旨	
<p>【研究目的】 近年、学校教育において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の重要性が強調されている。特に、異なる価値観を持つ多様な子ども同士が互恵的に関わりながら、主体的に課題を見つけ解決していく学びのデザインが求められている。(奈須, 2023; ファデルら, 2016) 中学校家庭科の幼児とのふれあい体験学習も、こうした学びを実現する場の一つであり、従来からその教育的効果に関する多くの知見が積み上げられている。しかし、多くの中学生は初めてのふれあい体験に緊張し、慣れた頃に体験が終了するため、十分に主体的な学びへと発展しにくい課題がある。そこで本研究では、実体験前に「プレふれあい体験（プレ体験）」を導入し、中学生が事前に幼児の好きな遊びや特徴を知る機会を設けることで、より充実した学びへとつなげる授業デザインを検討する。プレ体験を通じて中学生がどのような課題意識を持つかを KJ 法を用いて分析し、その結果をもとに、ふれあい体験学習の授業デザインに関する示唆を得ることを目的とする。</p> <p>【研究方法】 プレ体験後の中学生（Y 中学校 3 年：138 名）の自由記述を、共同研究者とともに KJ 法（川喜田, 1997）で分析し、佐藤（2008）の質的データ分析法も参考にまとめた。そして、その成果、課題、目標の関係性を図にまとめた。その図解を基に、共同研究者と今後の授業デザインについて議論を深めた。</p> <p>【結果と考察】 本研究では、幼児とのふれあい体験にプレ体験を導入し、中学生の自己評価に基づく成果・課題・目標を図解し、今後の学習デザインへの示唆を得た。この図解からは、次の 5 点が明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中学生の約 25.8%が〈乱暴・けんか対応〉〈健康と安全への不安〉など、安心・安全がふれあい体験の基盤であると認識していた。また、一部の中学生は、消極的な幼児への対応を課題として挙げた。 2) 中学生は〈尊重と受容〉〈賞賛と承認〉など幼児を温かく受け入れる姿勢を示したが、幼児中心の振り舞いを意識し、意図的に負けたふりをするなどの工夫もしていた。 3) 中学生の 62.6%が〈幼児の言葉や様子から内面を理解することの難しさ〉を課題として挙げ、〈幼児との距離感〉や〈苦手感情のコントロール〉の必要性を感じていた。 4) 技術科との関連では、〈遊びのアイデア不足〉や〈幼児に適したおもちゃを考案する難しさ〉が課題となり、本番に向けて〈遊びの楽しさを引き出す工夫〉を目標とする声が多かった。 5) 中学生は〈生活習慣の習得の支援〉や〈幼児同士の関係性の構築〉を意識し、〈幼児の興味と個性に応じた遊びの設計と関わり〉を目標とする意識が見られた。この図解をもとに、幼稚園・中学校・大学教員で意見交流を行った。その結果、中学校教員からは、「中学生が苦手感情を抱えていたことは意外」「幼児の言葉の理解には幼稚園教員の助言が有効」「遊びのバリエーションを持たせることが難しい」との意見があった。一方、幼稚園教員からは、「中学生の課題意識が予想以上に高い」「幼児と関わろうとする姿勢が素晴らしい」との評価が得られた。図解をもとに話し合うことで、中学生が安心・安全を重視し、幼児を受容・共感する姿勢を持っていたことが明らかになった。一方で、6 割以上の中学生が幼児の言葉や内面を理解することに難しさを感じ、不安を抱えていた。プレ体験後に振り返りの時間を設け、中学生同士が意見交換することで、課題解決の糸口となる可能性がある。プレ体験は、中学生に課題を発見させ、主体的な学びへとつなげる効果があることが示唆された。教師による交流の場の設定や、技術科・家庭科・幼稚園教諭の連携の重要性も明らかになった。今後は、プレ体験の効果を本番のふれあい体験にどのように結びつけるかを検討し、具体的な授業デザインを確立する必要がある。【参考文献】 C. ファデルら（2016）『21 世紀の学習者と教育の 4 つの次元』. 川喜田二郎（2020）『続・発想法 KJ 法の展開と応用』. 奈須正裕・伏木久始（2023）『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して』. 佐藤郁也（2008）『質的データ分析法』 	

発表番号 4

研究題目	
令和6年度岡山県立岡山御津高等学校「キャリア実習」における家庭科授業の実践と検討	
所属機関名	研究者名
岡山県立岡山御津高等学校 岡山大学 (元)	○長谷川千華 佐藤 園
発表要旨	
<p>[研究の目的・方法]</p> <p>岡山県立岡山御津高等学校(以下、「本校」と称す)は、岡山市北区に位置するキャリアデザイン科を設置する総合学科の小規模高校である。令和6年度入学生までは将来の進路希望に応じて、入学後に特別進学系列と地域協働系列に分かれ、教育課程が編成されている。本研究では、本校で開設されている「キャリア実習」で、令和6年度に長谷川が担当した地域協働系列2年次生の家庭科授業の実践を報告し、次年度からの「キャリア実習」と家庭科授業の在り方を検討することを目的とした。</p> <p>[結果及び考察]</p> <p>1. カリキュラムにおける「キャリア実習」の位置づけ</p> <p>「キャリア実習」は学習指導要領で規定されている「高等学校の教育課程」の「エ 学校設定科目及び学校設定教科」の中で、本校が独自に設定している教科「総合」の中の一科目である。単位数は3単位である。「キャリア実習」全体の目標は、「自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるとともに、望ましい職業観・勤労観および職業に対する知識や技能を身に付けさせる。」と設定されている。各教科の特色を活かしてこの目標を達成するために、体育、英語、理科、芸術、社会、家庭、国語、数学、商業の9教科が1学期に3教科ずつ担当し、各教科で授業を計画して実践した。</p> <p>2. 「キャリア実習」における家庭科授業の実践</p> <p>家庭科は、2学期に50分×9回の授業を行った。対象生徒は、LHRや総合的な探究の時間を通して、「働くこと」について考えたり、職業についての知識を増やしたりしているが、自分の個性を理解できている生徒は少なく、自分自身の生き方について深く考えられている生徒も少ないという実態がある。米国の家庭科教育学者BlankenshipとMoerchenは、家庭科の学習では「自己概念」と「性格」の両面から人間形成が可能である¹⁾、と述べていることから、生徒の実態に基づき、「個性を理解する」、「自分の人生との関係性について理解する」の2点を家庭科授業の目標に設定した。これらを踏まえ、①人生で必要な書類について、②キャッシュレス決済について、③一人暮らしについて、④妊娠について、⑤パーソナルカラーについて、⑥冠婚葬祭について、⑦食事のルール・マナーについて、⑧アイロンかけについて、⑨18歳までにかかる費用について、の9つの授業を計画し、令和6年7月10日～11月29日に地域協働系列2年次生B～D組72名(男子46名、女子26名)に実践した。</p> <p>3. 授業の結果</p> <p>3学期の「キャリア実習」終了後に、全授業を対面で行うことができた2年D組の生徒24名を対象に、家庭科授業とキャリア実習全体の良かった所と改善できる所について自由記述で回答を求めるアンケート調査を実施した。回答を得ることができたのは、16件である。</p> <p>その結果、「家庭科授業の良かった所」について、本授業の2つの目標につながる「パーソナルカラー診断が特に楽しかった」「婚姻のマナーとアイロンは将来について学べた」の記述が見られた。</p> <p>[引用文献]</p> <p>1) 佐藤園「家庭生活の見方や考え方を育てる家庭科」、日本教科教育学会編『今なぜ、教科教育なのかー教科の本質を踏まえた授業づくり』、文溪堂、2015、pp. 71</p>	

ラウンドテーブル

テーマ：ウェルビーイングの視点で捉える家庭科の授業実践

【趣旨】

本ラウンドテーブルでは、小・中学校において実践が行われた家庭科の授業を、ウェルビーイングの視点で捉え直す。家庭科の授業が、児童・生徒のウェルビーイングにどのように寄与しているのか、また、児童・生徒のウェルビーイングを起点とした授業をどのように開発するのか等、参加者との対話を通して家庭科の授業実践を深掘りしていく。

【実践報告1】

小学校 C 消費生活・環境

野村真由美先生（島根県 邑智郡美郷町立大和小学校）

「小学校家庭科における学校・地域の特色を生かした消費体験学習

－「大和流買い物上手になるぞ」による持続可能な消費生活を目指して－」

【実践報告2】

中学校 A 家族・家庭生活

吉岡優子先生（山口県 野田学園中・高等学校）

「中学校技術・家庭科における幼児と中学生のふれあい体験学習

－ペア活動を通じた双方向のかかわりを目指して－」

研究室だより

島根大学教育学部小学校教育専攻（家庭科教育副専攻） 長拓実

日本海に面する山陰地方・島根県松江市に位置する島根大学に、2025年4月に着任いたしました長拓実（ちょうたくみ）と申します。教育学部小学校教育専攻の一員として、「家庭科教育学」や「被服学」を担当しています。本学には家庭科の主専攻はないため、主専攻として小学校教育専攻または特別支援教育専攻を選択した学生は、副専攻として家庭科教育副専攻に所属することができます。また、2つの主専攻の学生は一学年に50名ほど在籍していますが、副専攻として最も人気なのが家庭科教育副専攻であり、各学年に10名ほど在籍しています。2025年度家庭科教育副専攻卒業生は、多くが卒業後に小学校教員となり、数名は中学校・高等学校家庭科教員になる予定です。なお、家庭科教育副専攻は、私を含む2名の専任教員と2名の特任教員で運営しています。

私は本学において「初等家庭科教育法概説」「中等家庭科教育法概説」「被服学I」などを担当しており、小学校だけでなく中学校・高等学校における家庭科の本質や実践的指導方略等に加え、中学校・高等学校での被服分野の指導に必要な内容も教えています。また、私は小学校教育専攻に所属するため、家庭科を専門としない学生を対象にしたオムニバス科目も担当しています。学生との対話を通じ、家庭科の世界だけにいては気づけないことを発見できる楽しさを感じています。

専攻の方針により、着任初年度はゼミの指導を担当しなくて良いという配慮をしていただきました。来年度から4名の学生が私の担当するゼミに所属します。ゼミ生にどのような研究がしたいか尋ねたところ、全員が実践研究をしたいと回答しました。本学には、「1000時間体験学修」という制度があり、大学での学びに加え、児童・生徒との直接的な関わりなど、様々な実践的経験によって「理論と実践」を統合し、修得することを目的とした体験活動が必須となっています。4名のゼミ生は、これまで小学校や中学校に定期的に通り、学校現場の実態を見て学んできたそうです。このような背景から、「理論と実践」を統合するような実践研究に興味を持っていると感じました。卒業研究では、可能な限りゼミ生の思いを尊重し、教職に就いてからも活かせるような内容を指導していきたいと考えています。

最後に、私の研究について簡単に紹介します。私は、スウェーデンのものづくり教科であるスロイド科に関する研究を行っています。スロイド科では、布や革などの柔らかい素材を用いるテキスタイルスロイドと木や金属などの硬い素材を用いる木工・金工スロイドが学ばれています。スロイド科は、製作過程における学びに重きが置かれており、①作品をデザイン・製作する能力や②創造性を発揮する能力、③持続可能な発展等の視点を用いて振り返る能力の育成が目指されています。そこで私は、スロイド科の知見を日本の家庭科における被服製作学習に応用した製作学習プログラムの開発を試みています。製作学習プログラムの開発は、島根県や鳥取県の先生方のご協力を得ながら進めていくことを構想しています。創造的な学びを重視したスロイド科の問題解決的な学習は、日本の被服製作学習におけるものづくりの教育的意義を再考する上で重要な視座を与えうるものだと考えています。

学校現場から

中学校「技術・家庭」技術分野と家庭分野における技術観の涵養を目指した授業実践報告

広島大学附属中・高等学校 宮川 駿

1. はじめに

本校では、今年度の研究主題を「カリキュラム・マネジメントを志向した学びの価値の創造（3）－多角的な見方・考え方を育成する探究－」と設定し、学習者が自ら教科・科目間の「つながり」を見いだしたり深めたりしながら学び続けることを目指した、多角的な見方・考え方を育成する授業づくりを探っています。そこで、技術・家庭科では、研究主題に関わるカリキュラム・マネジメント及び横断的学習を進めていくために、技術分野及び家庭分野の双方の「つながり（深く結びついた概念とスキル）」である「技術（技能）」の概念を探索・深化させることを意図した授業づくりに取り組むこととしました。

2. 実践の概要

本実践では、「米（無洗米）」を「技術（技能）」の具体例として取り上げながら、各分野に強調されている視点（技術分野は主として「生産者」的立場、家庭分野は主として「消費者」的立場）等に基づいて考えを深める展開としました。また、未来の食卓を支えるお米に関する学習活動及び「今後、私たち人間が、生活を営んでいく上で、『技術』とどのように向き合い、共生していくべきだと思いますか？」という問いから、今後の「技術（技能）」の在り方について検討し、「技術（技能）」の概念を探索・深化できるような授業実践としました。

未来に向けて・・・

生活者

より良い未来の生活を創造するために
私たちに何ができるのだろうか？

今後、私たち人間が、生活を営んでいく上で、
「技術」とどのように向き合い、
共生していくべきだと思いますか？

「技術をこのまま発展させ続けてもいいのだろうか？」

生産者（開発者）として消費者（社会）が求める
「技術」を創出、発展させ続けること
消費者として便利だから、楽ができるから等の
安易な考えのみによって「技術」の発展を希求すること

図1 授業で使用したスライド（一部）

3. 実践の成果

授業におけるワークシートの分析から、生徒の持つ「技術観」は、「技術を適切に利用し『依存』しないよう『共存』する」「技術に対する倫理的・社会的な制御・制限の必要性」「伝統・文化継承の必要性・重要性」「技術の積極的発展を望む」の4点に整理することができました。特に、「技術を適切に利用し『依存』しないよう『共存』する」の項目については、74.5%の生徒が記述していることから、多くの生徒が、「技術」に対する正と負の両側面を意識しつつ、あくまでも人間が使用する手段としての「技術」であるべきだと捉えながら、自身の「技術観」を深めていることがわかりました。また、生徒は「技術」を単に「便利なもの」「危険なもの」として捉えるのではなく、多層的かつ複雑な概念として認識しながら、技術との関わり方に関する「技術観」を深めていたという成果も得ることができました。今回、技術分野及び家庭分野における分野横断（融合）型の授業を実践したことによって、両分野の学びに基づく「技術観」の多面的な気づきがあり、生徒に対して「技術」の正と負の両側面を意識させながら、「何を大切にすべきか」という価値判断を伴う多角的な思考を促すことができたと考えています。

※本実践は、広島大学附属中・高等学校の令和7年度教育研究大会にて一部を公開しました。また、本報告は、広島大学附属中・高等学校が発行する『中等教育研究紀要』第72号に掲載した報告の一部です。

日本家庭科教育学会本部だより

日本家庭科教育学会 2025年度第2回地区会代表者会議議事録（一部抜粋）

日時：2025年12月7日（金）11:15～12:30（オンライン会議）

I 2025年度第1回地区会代表者会議議事録の承認

II 協議事項

1. 全国大会開催の輪番について

2026年度：四国地区 2027年度：理事会 2028年度：北陸地区 2029年度：関東地区

2. 地区会代表者会議の運営（議長・記録）について

2026年度：中国地区 2027年度：四国地区 2028年度：関東地区 2029年度：東海地区

3. 総会議長の輪番について

2026年度：東北地区 2027年度：中国地区 2028年度：四国地区 2029年度：北陸地区

4. 全国大会を対面開催するための方法について

各地区代表者から意向や地区の事情等が報告された→継続審議

5. その他 特になし

III 報告事項

1. 地区会報告

2. 理事会報告

- ・再来年度の70周年記念大会で新しい学習指導要領改訂に向けてエビデンスを示せるよう研究プロジェクトを実施していきたい。地区会には、全国調査の実施への協力をお願いしたい。
- ・地区代表者には10年間（2017～2026年度）の各地区の取組記録のまとめについて原稿の執筆依頼があり、12月末に締切となる。

3. その他 特になし

日本家庭科教育学会 2025年度第1回地区会代表者会議議事録（一部抜粋）

日時：2025年7月11日（金）17:00～（オンライン会議）

I 2024年度第2回地区会代表者会議議事録の承認

II 協議事項

1. 全国大会開催の輪番について

2025年度：中国地区 2026年度：四国地区 2027年度：理事会 2028年度：北陸地区

2. 地区代表者会議の運営について

2025年度：東北地区 2026年度：中国地区 2027年度：四国地区 2028年度：関東地区

3. 総会議長の輪番について

2025年度：九州地区 2026年度：東北地区 2027年度：中国地区 2028年度：四国地区

4. その他 特になし

III 報告事項

1. 地区会報告

2. 理事会報告

- ・共同研究者の演題登録をする際には参加登録が必要であることを確認した。
- ・学会誌68-1号からオンラインジャーナルとなったが、冊子も会員全員に配付されている。次号68-2号からはオンラインに一本化され、冊子は希望者のみ配付となる。

3. その他 特になし

2026年 日本家庭科教育学会中国地区会
第46回
総会及び研究発表&講演会

参加費
無料

日時 2026年8月29日 (土)
12:30 (受付開始) ~ 16:30 (予定)

会場 広島女学院大学 ソフィア2号館101教室
(広島市牛田東4-13-1 広島駅よりバスで15分)

総会 13:00 ~ 13:30

研究発表 13:45 ~ 14:45

講演会 15:00 ~ 16:30

「家政教育学研究と教育実践の足跡と展望」

講師：鈴木 明子先生 (広島大学名誉教授)

研究発表のお申込みについて

研究発表を希望される方は右の
QRコードまたはURLより必要
事項をご入力の上、6月19日
(金) までに送信してください。



<https://forms.gle/BrP6XVmFkZ9umPA77>



お問い合わせ先 〒732-0063 広島市東区牛田東4-13-1
広島女学院大学 人間生活学部 生活デザイン学科 植崎久美子
TEL:082-228-0386 (代表) Email:narazaki@gaines.hju.ac.jp

中国地区共同研究(2024~26年度)の途中経過

2024~26年度共同研究については、2027年度末の出版を目指して、計画を進めていく予定です。現在、7件の課題が寄せられていますが、引き続き募集しております。下記のテーマに関連していれば、これまでに実施された研究や実践を再構成されて寄稿されても結構です。ご興味をお持ちの方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

◇共同研究テーマ：

「ウェルビーイングにつながる学び、家庭科からのアプローチ

◇共同研究の期間：2024年6月~2027年3月末（出版予定）

◇共同研究の趣旨：

SDGs や文部科学省の方針を受け、学校におけるウェルビーイングの重要性が高まっています。本研究では、家庭科教育がいかに質の高い人生をサポートできるかを探究します。会員の皆様の実践やアイデアを集約・発信し、実験等を通じた新たな知見の獲得とともに、家庭科が担う役割の大きさを社会にアピールします。

◇共同研究・出版工程表（案）

期間	フェーズ	主な作業内容
2026年3月	追加募集	・既存7件の確認 ・追加研究テーマの公募（会員向け）
2026年4月	キックオフ	・全体打ち合わせ（メンバー顔合わせ） ・研究の方向性・分担・執筆規定の共有
2026年5月~9月	研究・調査	・各テーマの実験、実測調査、実践分析の実施 ・執筆開始（第1稿） ・出版社との打合せ、出版契約・概算見積もり確認
2026年10月末	原稿締切	・全執筆者からの原稿回収 ・編集委員会（事務局）による内容査読・調整
2026年11月~12月	編集・入稿	・出版社への入稿 ・初校（1回目の校正）作業
2027年1月	校正作業	・再校（2回目の校正）作業 ・図表や写真の最終確認
2027年2月	下版・印刷	・校了（三校） ・印刷、製本
2027年3月	発行・納品	・書籍完成・出版 ・各機関、学会へのアピール・配布

◇応募について

- ・研究内容：ウェルビーイングに関連する研究・実践（実施済みのものでも可）
- ・方法：「氏名・所属・連絡先（メール）・研究課題」を記入の上、下記まで E メールで申し込んでください。
- ・応募・問合せ先：山口大学教育学部 西尾幸一郎 nishio@yamaguchi-u.ac.jp

事務局だより

1. 会員について

【新入会員】（敬称略）

海切弘子（広島） 霍沢魅玲（岡山） 長 拓実（島根） 森 瑠莉子（山口）

2. 会報執筆について 〈学校現場から〉〈研究室だより〉

46号（令和 8年度）	広島	島根（本誌）
47号（令和 9年度）	島根	広島
48号（令和 10年度）	広島	山口
49号（令和 11年度）	山口	岡山
50号（令和 12年度）	岡山	鳥取

会員の状況を考慮して、46号以降はその年度の役員で、事情に応じて記事担当を決定することとなりました（45回総会にて承認）。記載してある順番は参考となります。どうぞご了承下さい。

3. 地区会費の納入のお願い

地区会費の納入状況についてのお知らせをメールでお知らせいたします。2026年度の地区会費とともに未納分の地区会費を下記の口座に納入して下さいますよう、お願いいたします。

未納期間が4年を超えますと、自動退会となりますので、ご注意ください。

【地区会費】年会費は1,000円で、入会金は不要です。

ゆうちょ銀行から

銀行口座	記号	番号	加入者名
ゆうちょ銀行	15500	30819531	日本家庭科教育学会中国地区会

他金融機関から

店名	店番	貯金項目	口座番号
五五八（読み ゴゴハチ）	558	普通貯金	3081953

【入会申し込み方法】

ホームページに掲載の申込フォームよりお申し込みください。

申込フォーム：<https://forms.gle/CkhdrUF2P3AtZ4gJ8>

4. 事務局連絡先

ご住所・ご所属先の変更などがございましたら、事務局までお知らせ下さい。

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院人間社会科学研究科 家政教育学プログラム

TEL：（082）424-6851（直通） 瀧日 滋野 E-mail：takishino@hiroshima-u.ac.jp

【編集後記】

第46号をお届けいたします。本号の発行にあたり、ご多用の中ご執筆くださいました先生方に、心より御礼申し上げます。本年度より編集に携わらせていただくこととなり、会報づくりを通して、これまでの取り組みの積み重ねや、会員の皆様のつながりの広がりを感じております。各地で実践や研究が丁寧に重ねられていることに触れ、あらためて本会のあたたかさや力強さを実感いたしました。本号も、「研究室だより」「学校現場から」をはじめとした多様な実践や取り組みが共有されております。これらの内容が、日々の実践や学びを見つめ直すきっかけとなり、会員の皆様の新たなつながりや気づきにつながっていけば幸いです。微力ではございますが、本会の活動の一助となるよう努めてまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。（瀧日滋野）

日本家庭科教育学会中国地区会



日本家庭科教育学会中国地区会
（岡山・広島・山口・島根・鳥取）
の活動を紹介します。

